



連体修飾マーカー「の」と「的 (de)」の中日比較 ：『中日対訳コーパス』を用いた計量調査

張, 晶鑫

(Citation)

統計数理研究所共同研究レポート, 444:87-102

(Issue Date)

2021-03-15

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81012576>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012576>



連体修飾マーカ―「の」と「的 (de)」の中日比較

―『中日対訳コーパス』を用いた計量調査―

張 晶鑫

湖北大学

概要

連体修飾マーカ―「の (no)」と「的 (de)」は非常に似たような意味機能を持つが、異なる部分も多い。本研究は中日対訳コーパスの小説データを用いて、両者の使用量と典型使用パターンを調査した。その結果、中国語の「的 (de)」は日本語の「の」より多く使用されること、「の」の典型使用パターンは名詞・助詞・助動詞+「の」+名詞・動詞であり、「的 (de)」の典型使用パターンは名詞・形容詞・形容動詞・動詞+「的 (de)」+名詞であること、「の」は主として主体と場所・範囲、もしくは限定と被限定の場合に用いられ、「的 (de)」は主として全体と一部、または所有者と所有物を表す場合に用いられることがわかった。これらは言語学においても、外国語教育学においても重要な知見である。

キーワード

的 (de), の, 連体修飾マーカ―, 中日対照, 中日対訳コーパス

1. はじめに

中日対照言語学の観点から見れば、中国語の「の (no)」と日本語の「的 (de)」は非常に似通った文法機能を持つ。例えば、以下の例を見てみよう。

- (1) 图书馆的书
- (1') 図書館の本
- (2) 不知道它们当中是不是还有活着的。
- (2') まだ生きているのがいるだろうか。
- (3) 从哪学来的?
- (3') どこで習ったの?
- (4) 你还倒挺会关心人的。

(4')あなたって親切なのね

上記の例のうち、(1)と(1')は連体格を、(2)と(2')は体言が省略されたものを、(3)と(3')は疑問文の末尾の「か」を略したものを、(4)と(4')は会話の中で語調をやわらげつつ聞き手を意識しての感動を示している。中国語の「的 (de)」と日本語の「の」は共に複数の機能を持ち、複雑な振る舞いを示すにもかかわらず、多くの場合置き換え可能である。

しかしながら、中国語の「的 (de)」と日本語の「の」はすべての場合において置き換え可能なわけではない。例えば、以下の用例を見てみよう。なお、下記の(5)(6)(7)は『日本語学習者作文コーパス』より抽出し中国人日本語学習者が産出したもので、(8)(9)(10)は『留学生书面語語料庫 (留学生書き言葉コーパス)』より抽出し日本人中国語学習者が産出したものである。また、訳文は筆者によるものである。

(5) *それは日本語科に選択するの(→の)原因だ。(CG031_初級)

这是我选择日语系的原因。

(6) *最もいいの(→の)方法は、日本からの留学生とよくコミュニケーションするのだ。(CG036_中級)

最好的方法是, 多和来自日本的留学生交流。

(7) *興味は人の一番いいの(→の)先生だと言われている。(CG054_上級)

据说兴趣是人的最好的老师。

(8) *我看了她的(→の)跳舞。(初級)

彼女のダンスを見ていました。

(9) *我跟他见面以前, 我以为我们的老师是个女的(→の)老师。(中級)

お会いする前は、先生は女性の先生だと思っていました。

(10) *每个人至少有一台的(→の)电脑。(中級)

一人一台以上のパソコンを持っています。

上記に示されるように、(5)(6)(7)はいずれも本来不要な「の」を使ってしまう用例であり、(8)(9)(10)はいずれも「的 (de)」の過剰使用の用例であると思われる。このように、中国語の「的 (de)」と日本語の「の」は意味用法が類似していても、完全に同じものではないことがわかる。どの言語においても、助詞「の」もしくは「的 (de)」の使用頻度が高く重要な役割を果たしている。しかしながら、どの言語においてはより多く使うか、使う文脈にはどのような違いがあるのかは十分に示されておらず、学習者は使用上多くの誤用を犯している。本研究は学習者に両者をわかりやすく提示するため、大規模なパラレルコーパスを使い、両者の違いの解明を目指す。

2. 先行研究

先行研究においても中国語助詞「的 (de)」と日本語助詞「の」の相違に注目したものがあり、ある程度の蓄積がある。まず、于 (2010) は中国語助詞「的 (de)」と日本語助詞「の」の連体修飾構造に注目し、両者の共通点と相違点を探った。その結果、基本構造および派生構造の点においては中国語の「A 体言+的+B 体言」と日本語の「A 体言+の+B 体言」は共通し、また、それらが修飾する体言間の関係も共通するということが明らかになった。相違点としては、語順の違いで生じるもの (例: 在东京度过的时间很长→東京で送る生活が長い)、語尾変化の有無によって生じるもの (例: 图书馆发行的书→図書館で発行する本)」と特殊な意味機能によって生じるもの (中国語助詞「的 (de)」は「掛ける」「足す」の意味を持つ) に分けられるとしている。

次に、孫 (2004) は前接語と後接語の修飾関係、また品詞を手がかりに中国語の「的 (de)」と日本語の「の」の対応関係を整理し、両者が対応できる場合は、1) 所有関係 (例: 図書館の本→图书馆的书)、2) 親族関係、社会的な人間関係、所属の職場或いは団体 (例: 松下さんの会社→松下的公司)、3) 方位 (例: 隣の店→旁边的商店)、4) 時間 (例: 先日の事→前几天的事)、5) 重さ、長さ、面積、容積などの意味を表す (例: 42 キロのマラソン→42 公里的马拉松) 5 つの場合に分け、また、両者が非対応の場合は、中国語の「的 (de)」のみが使用される場合と日本語の「の」のみが使用される場合に分けた。中国語の「的 (de)」を使うが、日本語では「の」を使わない場合は、動詞が連体修飾語となる場合 (例: 食べるもの→吃的东西)、形容動詞が連体修飾語となる場合 (例: 真っ赤な太陽→红彤彤的太阳) と数量詞の重ね型が連体修飾語となる場合 (例: テーブルの上の一皿一皿に山海の珍味がたくさん並べられている。→桌上摆满了一碟一碟的山珍海味) であり、日本語では「の」を使うが、中国語では「的 (de)」を使わない場合は、名詞が連体修飾語となる場合 (私のお父さん→我爸爸)、数量を表す言葉が連体修飾語となる場合 (二冊の雑誌→两本杂志)、「很少、很多、不少、不多」のような形容詞フレーズが連体修飾語となる時 (大勢の人→很多人) である。

最後に、方 (2004) はもっぱら名詞に注目して、前接語と後接語の結びつきを手掛かりに、中国語の「的 (de)」と日本語の「の」の関係性を細かく分類している。

表 1

前接名詞と後接名詞による比較

名詞のタイプ	結びつき	例	日本語	中国語	相違
物 N-物 N	<物の部分>	バスの窓	「の」	「的」不要	≠
	<製造原料>	絹のスカーフ	「の」	「的」不要	≠

	<製品の特徴>	積み木の家	「の」	「的」必須	=
	<特種物のための使用物>	中風のくすりの袋	「の」	「的」必須	=
	<物の取付け場所>	棚のブレンダー	「の」	「的」必須	=
人 N・人 N	<人間関係>	彼の長男	「の」	「的」必須	=
	<家族親類>	父は毎日酒と女...	「の」不用 「的」省略可		≠
	<特定者名の言い換え>	被害者の若妻	「の」	「的」不要	≠
	<話し手の名前言い換え>	私曙太郎	「の」不要	「的」不要	=
人 N・物 N	<所有物>	私のダイヤモンド	「の」	「的」必須	=
	<特定グループの使用物>	男の靴	「の」	「的」不要	≠
	<特定グループの特製物>	鳥の巣	「の」	「的」不要	≠
人 N・場所 N	<所有する場所>	私の部屋	「の」	「的」不要	≠
	<所属場所>	我々の会社	「の」「的」省略可		=
人 N・身体部位	<持ち主の身体部位>	両方の耳	「の」	「的」必須	=
	<身体部位の一部>	手のひら	「の」	「的」不要	≠
場所 N・場所 N	<場所のありか>	運動場のすみ	「の」	「的」必須	=
	<場所の言い換え>	アジアの国日本	「の」	「的」必須	=
場所 N・人 N	<場所の関係者>	鹿児島友達	「の」	「的」必須	=
	<出身地>	京都の人	「の」	「的」不要	≠
	<職業>	大学の先生	「の」	「的」不要	≠
	<所属身分>	東京大学の教授	「の」	「的」必須	=
場所 N・物 N	<産地>	隅田川の水	「の」	「的」必須	=

上記の 3 つの研究はそれぞれ連体修飾構造、共起語の修飾関係・品詞、共起名詞の修飾関係に注目した。いずれも中国語の「的 (de)」と日本語の「の」の関係を詳しく調べたもので、中日対照言語学の観点から見れば、非常に重要な文献であるが、多くの場合は少数の用例に基づいたもので、大規模なコーパスデータを用いた検証は残されている。また、中国語の「的 (de)」と日本語の「の」の使用量や典型用法（共起語）の違いは示されておらず、外国語教育の観点から見れば、両者の関係性に対する記述をさらに精緻化する必要がある

と思われる。

3. 研究設問・研究手法

3.1 研究設問

本研究の目的は、『中日対訳コーパス』の小説データを根拠として、多くの先行研究に注目されている共起語に加えて使用量の比較に基づき、連体修飾マーカースとしての中国語の「的 (de)」と日本語の「の」の比較を行い、両者の使用パタンの相違の解明を試みる。具体的に以下のリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1 (全体使用量) 使用量にはどのような違いがあるか?

RQ2 (共起語品詞構造) 前接語と後接語の共起パターンにはどのような違いがあるか?

RQ3 (共起語修飾関係) 前接語と後接語の修飾関係にはどのような違いがあるか?

3.2 データ

本研究で使用するデータは北京日本学研究中心が開発した『中日対訳コーパス (中日対訳語料庫)』である。その中には、小説、エッセイ、伝記、政治評論・白書、法律関連文書・条約文書、詩など各ジャンルの中日対訳テキストが含まれているが、本研究はデータ量の最も多い小説データに絞る。収録されている作品の詳細は以下に示すとおりである。

表 2

小説データの詳細

日本語原作	中国語訳	中国語原作	日本語訳
あした来る人	情系明天	插队的故事	遙かなる大地
坊っちゃん	哥儿	盖棺	棺を蓋いて
越前竹人形	越前竹偶	丹凤眼	鳳凰の眼
布団	棉被	轱辘把胡同 9 号	轱辘把胡同九号
雁の寺	雁寺	关于女人	女の人について
破戒	破戒	活动变人形	応報
鼻	鼻子	红高粱	赤い高粱
金閣寺	金閣寺	金光大道	輝ける道
こころ	心	家	家
高野聖	高野圣僧	轮椅上的梦	車椅子の上の夢
黒い雨	黒雨	呐喊	呐喊
野火	野火	彷徨	彷徨
ノルウェーの森	挪威的森林	青春之歌	青春の歌
羅生門	罗生門	倾城之恋	傾城の恋

青春の蹉跎	青春的蹉跎	棋王	チャンピオン(棋王)
飼育	饲养	人到中年	北京の女医
死者の奢り	死者的奢华	人啊, 人	ああ、人間よ
砂の女	砂女	上海的早晨(上)	上海の朝上巻第1部
斜陽	斜阳	霜叶红于二月花	霜葉紅似二月花
痴人の愛	痴人之愛	天云山传奇	天雲山伝奇
友情	友情	小鮑庄	小鮑莊
雪国	雪国	骆驼祥子	駱駝祥子
		鐘鼓楼	鐘鼓樓

3.3 手法

まず, RQ1 では, 樋口耕一氏が開発した計量テキスト分析向けのフリーソフトウェア KHCoder3 を使った。具体的に, 同ソフトウェアに組み込まれている Chasen/ IPA で形態素解析形態素解析を行い, 「の」と「的 (de)」の出現回数を取得し, 対数尤度比検定を行う。対数尤度比とは, 語と語の共起の強度や有意性を示す指標の1つであり, コロケーションの抽出において最もバランスの取れた統計指標とされている(仁科, 2014)。次に, RQ2 では, 前接語と後接語を Dice 係数順でそれぞれ上位 100 種抽出して, タイプ頻度とトークン頻度を取得し, 対数尤度比検定を行う。最後に, RQ3 では, 前接語と後接語を名詞に絞り, 「の」または「的 (de)」を含む 3 語連鎖の上位 20 種をリストアップして質的に観察する。

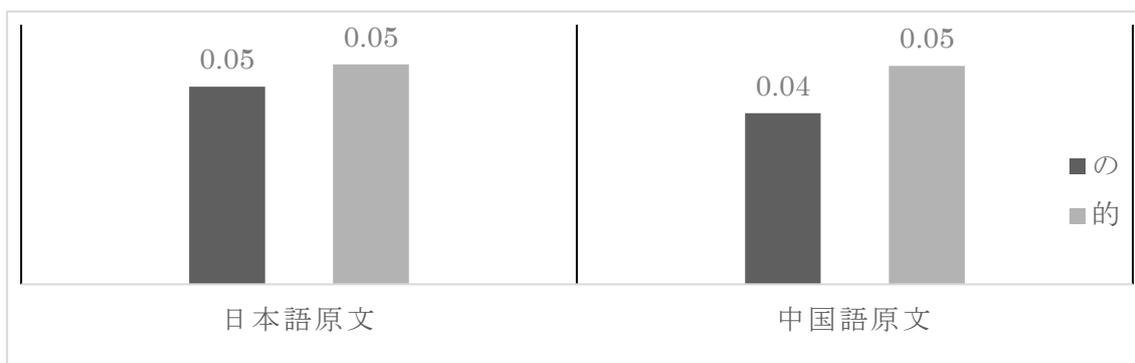
4. 結果と考察

4.1 RQ1 使用量の比較

まず, 使用量を調査したところ, 以下の結果を得た。

図 1

使用量の比較



対数尤度比検定を行なった結果、原文が日本語の場合でも、原文が中国語の場合でも、「の」より「的 (de)」の方がより多く使用されることがわかった(日本語原文: $G^2=367.56$; $p<.001$, 中国語原文: $G^2=2835.93$; $p<.001$)。これは中国語の「的 (de)」と日本語の「の」の使用全体像を理解する上では重要な知見だといえよう。では、なぜ中国語の「的 (de)」は日本語の「の」より多く使用されるかについて用例を見ながら考えることにしよう。

(11) 廊下の突き当りにある電話口で、大貫八千代は、驚いた時の癖で、少し大仰な調子で、「あら。を二つ三つ重ねて口から出していたが。

(11') 走廊尽头处的电话机旁, 大贯八千代以不无夸张的语气, 一连说了三个“哎哟”。这是她吃惊时的口头语。

(12) 许宁抬起头来, 感激的目光和道静真挚的沉稳的目光碰在一起时, 他忽然问道:

(12') 許寧は顔をあげた。感激のまなざしが、道静の真摯なおちついた瞳と出会ったとき、かれはとつぜん問いかけた。

(13) “是的。而且凑合被认为合理而幸福。但是, 理想的爱情还是存在的。你不是还留了百分之五吗?”我回答。

(13') 「そうね。しかも、馴れ合いが合理的で幸せと考えられている。だけど、理想的な愛情はやっぱり存在するわ。あなただって、五パーセント残したじゃない」

用例 11 中の「驚いた時の癖で」は「这是她吃惊时的口头语」のように変わり、「の」は「的 (de)」に置き替わったが、「廊下の突き当たり」は「走廊尽头」に変わり、「の」は「的 (de)」に置き替わらなかった。また、「突き当りにある電話口」、「真摯な落ち着いた瞳」、「理想的な愛情」など、日本語では「の」が使用されなかったが、それらは中国語の「的 (de)」に置き換えられた。中国語の「的 (de)」は日本語の「の」のみならず、「にある」や「真摯な」の「な」や「理想的な」の「的な」にも対応していることがわかった。すなわち、実際の文脈では、「的 (de)」が省略される場合も存在するが、連体修飾マーカの多様性に富んだ日本語に比べて中国語では「的 (de)」に頼る傾向があり、結果として同じ意味を表す場合においては中国語の「的 (de)」使用が多く見られたと思われる。加えて、用例 13 に見られた「是的」「存在的」では共に意味を強調するため「的 (de)」が使用され、いずれも「の」以外の表現 (それぞれ「そうね」「存在するわ」) に置き換わった。

4.2 RQ2 前接語・後接語共起パターン

まず、前接語と後接語の品詞に注目した場合、以下の結果を得た。

表 3

日本語を中国語に訳した際の前接語

type	の	的	G^2	p	傾向	token	の	的	G^2	p	傾向
名詞	82	62	10.09	<.01	の>的	名詞	11324	10955	20186.85	<.001	の>的
助詞	11	0	15.89	<.001	の>的	助詞	1807	0	7698.94	<.001	の>的
助動詞	4	0	5.63	<.05	の>的	助動詞	1026	0	4370.91	<.001	の>的
形容詞・ 形容動詞	1	20	23.09	<.001	的>の	形容詞・ 形容動詞	124	1616	43.18	<.001	的>の
動詞	1	18	20.1	<.001	的>の	動詞	73	1996	184.47	<.001	的>の

表 4

中国語を日本語に訳した際の前接語

type	的	の	G^2	p	傾向	token	的	の	G^2	p	傾向
名詞	62	82	10.09	<.01	の>的	名詞	20733	16509	3004.26	<.001	的>の
助詞	0	11	15.89	<.001	の>的	助詞	0	2638	2839.37	<.001	の>的
助動詞	0	3	4.21	<.05	の>的	助動詞	0	1269	1365.57	<.001	の>的
形容詞・ 形容動詞	23	2	23.25	<.001	的>の	形容詞・ 形容動詞	3126	567	2928.14	<.001	的>の
動詞	15	2	12.18	<.001	的>の	動詞	2353	558	1883.56	<.001	的>の

表 5

日本語を中国語に訳した際の後接語

type	の	的	G^2	p	傾向	token	の	的	G^2	p	傾向
名詞	86	75	3.9	<.05	の>的	名詞	11677	11043	21117.09	<.001	の>的
助詞	2	20	18.92	<.001	的>の	助詞	1056	7423	2.58	0.109	
形容詞・ 形容動詞	5	5	0	1		形容詞・ 形容動詞	691	437	1548.12	<.001	の>的
動詞	7	0	9.96	<.01	の>的	動詞	1056	0	4498.74	<.001	の>的

表 6

中国語を日本語に訳した際の後接語

type	的	の	G^2	p	傾向	token	的	の	G^2	p	傾向
名詞	70	88	10.03	<.01	の>的	名詞	16172	18394	10.03	<.001	的>の
助詞	23	2	23.25	<.001	的>の	助詞	12419	1058	23.25	<.001	的>の
形容詞・ 形容動詞	6	5	0.1	0.756		形容詞・形 容動詞	1574	920	0.1	<.001	的>の

動詞	1	5	2.99	0.084	動詞	125	1219	2.99	<.001	の>的
----	---	---	------	-------	----	-----	------	------	-------	-----

上記の結果をふまえれば、前接語においても、後接後においても、タイプ使用量においても、トークン使用量においても、名詞が最も多いことがわかった。すなわち、「名詞+の名詞」、「名詞+的+名詞」が最も典型的な用法であることが示された。この結果は于(2010)の結果と一致する。

また、品詞別に見ると、前接語に関しては、タイプ、トークンともにほとんど同じ傾向がみられた。名詞については、「の>的」、助詞や助動詞についても、「の>的」の関係性が示された。一方、形容詞、形容動詞、動詞の場合は、「的>の」、すなわち逆の傾向がみられた。ここで注目すべきは、全体で見た場合、「的>の」の順位であったが、品詞別に見ると傾向が変わることもあるということである。品詞別に見ることで、「の」と「的 (de)」の性質の違いがより明確になったと思われる。いずれも前接語には名詞が多いものの、「的 (de)」については形容詞、形容動詞、動詞が多いことが特徴的で、「の」については助詞や助動詞が多いことが特徴的である。

次に、後接後に関して言うと、いずれの場合でも名詞が多いが、注目すべきは、「の」の後接語には動詞がより多く存在することと、「的 (de)」の後ろには動詞がこないということである。後接語において動詞が使用されるかどうかは中国語の「的 (de)」と日本語を区別する重要なポイントであるといえよう。

本研究は日本語から中国語に、また中国語から日本語にという 2 つの翻訳状況と共に観察したわけであるが、比較してみれば、若干のズレが見られるものの、ほとんど同じ傾向が示された。すなわち、「の」の典型使用パターンは名詞・助詞・助動詞+「の」+名詞・動詞であること、「的 (de)」の典型使用パターンは名詞・形容詞・形容動詞・動詞+「的 (de)」+名詞であることが示された。このように、共起語の品詞別にことで中国語の「的 (de)」と日本語の「の」のそれぞれの典型的な共起パターンを特定することができ、両者の違いをより明確に把握することができたと思われる。例えば、以下の用例を見てみよう。

(14) その夜から萩野の家の下宿人となった。驚いたのは、おれがいか銀の座敷を引き払うと、翌日から入れ違に野だが平気な顔をして、おれの居た部屋を占領した事だ。さすがのおれもこれにはあきれた。

(14') 打那天晚上起,我就成为萩野家的房客了。使我惊奇的是,我把伊贺银的房子退掉以后,小丑第二天就搬了进去,他不露声色地占据了我曾经住过的房子。

上記の用例に示されるように、「萩野の家の下宿人」の場合、前「の」のは中国語の「的 (de)」に置き換えられなかった。この用例から、なぜ同じ名詞+名詞の場合でも日本語の方は「の」がより多いことが解釈できる。RQ3 で詳しく見るが、これは中国語では条件を

満たせば「的 (de)」がしばしば省略することに起因する。また、「おれのいた部屋」は、名詞＋動詞の組み合わせであったが、それが中国語になると動詞＋名詞のパタン(住过的房子)になる。これは本研究で明らかにした「の＋動詞」と「動詞＋的 (de)」の違いを顕著に表した用例の1つである。

4.3 RQ3 共起名詞修飾関係

最後に、多くの先行研究が注目している前接名詞と後接名詞の修飾関係を見るため、「の」または「的 (de)」を含む3語連鎖の上位20種をリストアップし、質的に観察を行い、以下の結果を得た。

表 7

原文が日本語の場合の3語連鎖

原文「の」	関係	訳文「的(de)」	関係
私の心	全体と一部	我的脸	全体と一部
私の顔	全体と一部	我的心	全体と一部
机の上	主体と場所・範囲	我的眼睛	全体と一部
私のこと	所有者と所有物	她的脸	全体と一部
私の方	限定と被限定	他的脸	全体と一部
私の眼	全体と一部	先生的夫人	所有者と所有物
頭の中	主体と場所・範囲	我的心情	所有者と所有物
私の胸	全体と一部	里的人	全体と一部
目の前	主体と場所・範囲	我的手	全体と一部
人の間	主体と場所・範囲	我的身体	全体と一部
心の中	主体と場所・範囲	自己的房间	所有者と所有物
窓の外	主体と場所・範囲	我的事	所有者と所有物
君のこと	所有者と所有物	我的朋友	所有者と所有物
部屋の中	主体と場所・範囲	我的记忆	所有者と所有物
僕の方	限定と被限定	我的过去	所有者と所有物
眼の前	主体と場所・範囲	她的身体	全体と一部
さんの奥さん	所有者と所有物	我的名字	所有者と所有物
僕の顔	全体と一部	我的肩膀	全体と一部
さんの方	限定と被限定	他的话	所有者と所有物
あなたのこと	所有者と所有物	自己的意志	所有者と所有物

表 8

原文が中国語の場合の 3 語連鎖

原文「的(de)」	関係	訳文「の」	関係
我的心	全体と一部	目の前	場所・範囲
他的话	所有	部屋の中	場所・範囲
她的手	全体と一部	心の中	場所・範囲
她的眼睛	全体と一部	窓の外	場所・範囲
他的眼睛	全体と一部	家の中	場所・範囲
他的心	全体と一部	頭の中	場所・範囲
他的手	全体と一部	目のまえ	場所・範囲
我的手	全体と一部	机の上	場所・範囲
他的脸	全体と一部	私の心	全体と一部
她的心	全体と一部	自分の家	所有
她的脸	全体と一部	女のひと	限定
我的眼睛	全体と一部	テーブルの上	場所・範囲
他的声音	全体と一部	眼の前	場所・範囲
他的脸上	場所・範囲	静の手	全体と一部
里的人	全体と一部	人の心	全体と一部
我的眼前	場所・範囲	彼の顔	全体と一部
她的声音	全体と一部	自分の部屋	所有
我的朋友	所有	自分のこと	所有
我的母亲	所有	胸の中	場所・範囲
他的心里	場所・範囲	彼女の顔	全体と一部

網掛けは「の」と「的 (de)」が完全に対応しているものを表している。全 20 種のうち 3 種か 4 種しか重複していないことがわかった。言い換えれば、「の」と「的 (de)」が完全に置き換えられるという部分が非常に限定的なものであると思われる。また、表 9 のように前後の修飾関係をまとめることができる。

表 9

共起名詞間の修飾関係まとめ

	原文「の」	訳文「の」	原文「的(de)」	訳文「的(de)」	関係
全体と一部	5	5	10	14	「的」>「の」
主体と場所・範囲	8	11	0	3	「の」>「的」
限定と被限定	3	1	0	0	「の」>「的」
所有者と所有物	4	3	10	3	「的」>「の」

上表に示されるように、「の」は主体と場所範囲や限定と非限定という関係を表しているのに対し、「的 (de)」は全体とその一部、または所有関係を表していることが示唆された。先行研究では細かく、23 種もの分類もあったが、本研究は共起語調査でそれらを 4 種の分類で整理できた。

(15) 妈妈的脸转过来了。妈妈的两只眼睛多忧伤啊！我把头低下来。房间里只有闹钟的嘀嗒声。

(15') お母さんがこっちを向いた。なんて悲しい目だろう。私はうなだれた。目覚まし時計のカチカチいう音だけが部屋にひびく。

(16) 島村は自分の胸の底に雪が降りつむように聞いた。

(16') 島村听起来有如雪花飘落在自己的心田里。

(17) 人垣の前の雪

(17') 人墙前面的雪

用例 15 はよく見られる中国語の「的 (de)」の典型的な用法構造 (名詞+的+名詞) の用例の 1 つである。「妈妈的脸 (著者訳: お母さんの顔)」「妈妈的两只眼睛 (著者訳: お母さんの両目)」の「顔」や「目」はいずれも「お母さん」という主体に属する一部であり、全体とその一部の関係を表していると思われるが、日本語になるとお母さんや目だけに訳された。これは日本語ではよく主語が省略されることに影響されたものだと考えられる。また、用例 16 に用いられた「胸の底」の場合、主体と場所を表していると思われるので、中国語では「的 (de)」の使用が省略された。

以上のように、中国語においても、日本語においても、共起名詞が最も多いが、選好する文脈、すなわち修飾関係が異なることが示唆された。

5. まとめ

本研究は中日対訳コーパスの小説データを根拠として、外国語教育の観点から、修飾マーカとしての中国語の「的 (de)」と日本語の「の」の比較を行った。まず、RQ1 では、中国語原文の場合でも、日本語原文の場合でも、「的 (de)」>「の」の関係性が示された。次に、RQ2 では、前接語と後接語の品詞に注目して、中国語の「的 (de)」と日本語の「の」

の共起構造の特定を行い、両者の違いを明らかにした。「の」の典型使用パターンは名詞・助詞・助動詞+「の」+名詞・動詞であること、「的 (de)」の典型使用パターンは名詞・形容詞・形容動詞・動詞+「的 (de)」+名詞であることが示された。最後に、RQ3 では、共起パターンの中で、最も典型的な名詞に絞り、名詞間の修飾関係を質的・量的調査した。その結果、「の」は主として主体と場所・範囲、もしくは限定と被限定の場合に用いられ、「的 (de)」は主として全体と一部、または所有者と所有物を表す場合に用いられることがわかった。仮に、A を前接名詞とし、B を後接名詞とすれば、中国語の「的 (de)」と日本語の「の」に包含される意味モデルは以下の図のように示すことができる。

図 2
中国語の「的 (de)」の意味モデル

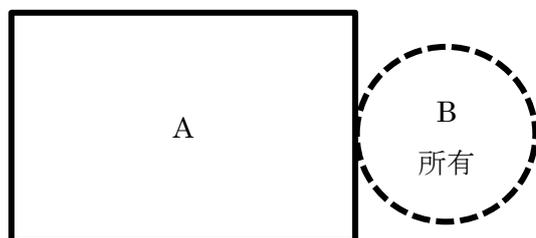
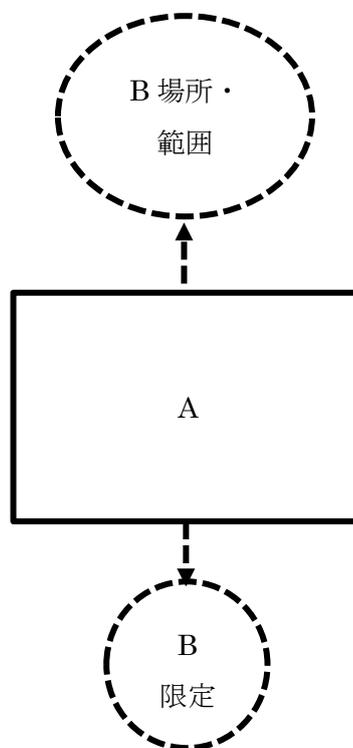


図 3
日本語の「の」意味モデル



最後に冒頭で示した誤用を今回の調査で明らかになったことと照らし合わせると、誤用はどのように解釈できるかを考えることとしよう。

(5) *それは日本語科に選択するの(→φ)原因だ。(CG031_初級)

这是我选择日语系的原因。

(6) *最もいいの(→φ)方法は、日本からの留学生とよくコミュニケーションするのだ。(CG036_中級)

最好的方法是, 多和来自日本的留学生交流。

(7) *興味は人の一番いいの(→ ϕ)先生だと言われている。(CG054_上級)

据说兴趣是人的最好的老师。

(8) *我看了她的(→ ϕ)跳舞。(初級)

彼女のダンスを見ていました。

(9) *我跟他见面以前, 我以为我们的老师是个女的(→ ϕ)老师。(中級)

お会いする前は、先生は女性の先生だと思っていました。

(10) *每个人至少有一台的(→ ϕ)电脑。(中級)

一人一台以上のパソコンを持っています。

以上の用例はいずれも母語の負の転移による誤用であるが、誤用の具体的な原因は異なる。まず、日本語の「の」は後ろに動詞と形容詞を使用することが可能であるが、前に使うことはないことが本研究で明らかになった。用例 5 では「の」の前は動詞であるため、誤用となった。用例 6 と 7 では「の」の前は形容詞であるため、誤用と見なされる。

また、中国語の「的 (de)」の前に動詞を使用することは許容されるが、後ろには動詞を使うことはないということが本研究で明らかになったことである。このことをふまえれば、用例 8 の誤用の原因が解釈できるようになる。最後に、用例 9 と 10 は全て名詞+名詞のパタンであるが、前接語と後接語の修飾関係は全体と一部や所有関係ではなく、「A という B」のように B を限定する関係を表している。日本語としては「の」が使用されるが、中国語では「的 (de)」がない方が望ましい。このように、中国語の「的 (de)」と日本語の「の」の共起パタンと修飾関係を把握できれば、誤用を減らすことができ、より正確な算出につながるであろう。

本研究は中日パラレルコーパスを用いて中国語の「的 (de)」と日本語の「の」比較を行ったが、調査したのは小説のみで、今後ジャンルを広げて調査結果の妥当性の検証を行う必要があると思われる。また、RQ3 では共起語を量的・質的に見てきたが、観察したのは上位 20 種のみで、分析対象を拡大する余地がある。そして、外国語教育への応用の向上のため、学習者の産出をより体系的に見る必要がある。今後はこれらの課題を念頭に研究をさらに深めていきたいと思う。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 20F20999 の助成を受けたものです。

引用文献

石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠(2010) 『言語研究のための統計入門』 くろしお出版
于飛(2010) 「日本語助詞『の』と中国語助詞『的』の比較対照研究：連体修飾構造と用法」

- 『人文研究 (大阪府立大学文學會)』 172, 81-114.
- 徐一平(2009) 「コーパス言語学から見た日本語研究と辞書編纂:中日対訳コーパスの構築とその応用研究をめぐって」『中国 21』(愛知大学現代中国学会)32, 105-122.
- 孫淑華(2004) 「中国語の『的 (de)』と日本語の『の』の対応と非対応」『鳥取大学大学教育総合センター紀要』 1, 1-6.
- 張佩霞(2000) 「中国語の『的』と日本語の『の』: 連体助詞としての用法を中心に」『千葉大学社会文化科学研究』 4, 385-388.
- 仁科恭徳(2014) 「bloody hell: bloody の共起語抽出に関して」『明治学院大学教養教育センター紀要』 8(1), 55-63.
- 樋口耕一(2020) 『社会調査のための計量テキスト分析 第2版』 ナカニシヤ出版
- 方美麗(2004) 「中国語の『的』と日本語の『の』の意味用法の考察: 日中対照研究」『外国語教育論集 (筑波大学外国語センター)』 26, 91-103.
- 毛莉(2015) 「日本語教育の視点から見る中国語の『的』と日本語の『の』: 「N1 の N2 の... の N」の形を中心に」『日本語教育方法研究会誌』 22(1), 28-29.
- 森秀明(2018) 「連体助詞の『の』と文体の関係」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』 3, 34-46.

